

# 令和3年度 学力向上プラン

学校名 中央区立有馬小学校

## 学校の教育目標

自ら学ぶ子・思いやりのある子・心とからだの健康な子

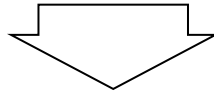
## 学校経営方針（確かな学力向上にかかわる内容）

- ①基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」・「学びに向かう力、人間性等」をバランス良く育成し、学力の定着を目指す。
  - ・算数習熟度別少人数指導の充実
  - ・理科の実験・観察を基にした体験的な学びの充実
  - ・個に応じた指導の充実
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
  - ・学び合いのある授業づくり
  - ・有馬スタイルの確立
  - ・言語活動の充実
- ③ICT機器を活用した指導の充実を図る。
  - ・課題解決能力、情報処理能力を培うためのICT機器を活用した授業づくり
  - ・ドリルソフトの活用

令和3年度「学習力サポートテスト」「全国学力・学習状況調査」の結果分析や、日常の学習の様子等から見られる課題及び要因

	児童の学力の課題	主な要因
国語	「書く能力」については、学習力サポートテストにおいて、6年2.1ポイント、5年0.1ポイント、4年6.7ポイント区平均値を上回っており、多くの児童が目的や意図に応じて文章を書くことができている。「言語についての知識及び技能・技能」については、学習力サポートテストにおいて、6年1.4ポイント、5年0.1ポイント区平均値を下回っており、学年によっては他の領域に比べると漢字や言葉の働きなど言語に関する知識に課題がある。	日常生活において、言葉の意味について調べたり活用したりする機会が少ないことや、知っている言葉を使って書く習慣が身に付いていないことなどが要因の一つと考えられる。
算数	「数量や図形についての技能」に関しては、学習力サポートテストにおいて、5、6年は区平均値程度、4年は2.1ポイント区平均値を上回っており、多くの児童が正確に計算することはできている。「数学的な考え方」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年1.8ポイント、5年0.9ポイント区平均値を下回っており、学年によっては、情報を読み取り、それを根拠として問題解決することに課題がある。	課題解決に向け既習事項を活用して自分の考えをまとめたり、考えを発表し全体で共有したりする機会が不足していることが要因の一つと考えられる。
社会	「社会的事象についての知識・理解」に関しては、学習力サポートテストにおいて、5、6年は区平均値程度、4年は3.8ポイント区平均値を上回っており、世界の主な大陸の名称と位置や日本の主な工業地帯・工業地域等、社会の基本的な用語を理解することができている。「観察・資料活用の技能」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年0.9ポイント、5年1.5ポイント区平均値を下回っており、水産業の資料から考えることや地図等の資料から情報を読み取ることに課題がある。	地図やグラフ等の資料から情報を読み取る活動が不足していることや、社会科に関する知識が児童の日常生活と結び付いていないことが要因の一つと考えられる。

理科	「自然事象についての知識・理解」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年0.4ポイント、4年5.0ポイント区平均値を上回り、5年1.9ポイント区平均値を下回っており、名称、器具の扱い方や、用語などの知識が身につけているが、植物の花のつくりと実や魚のたんじょう等の理解に課題がある。「観察・実験の技能」に関しては、学習力サポートテストにおいて、6年0.2ポイント区平均値を下回っており、学年によって、動植物や自然事象の観察をもとに考察することに課題がある。	自然が身近に感じる事が不足しているため実感を伴った学習が難しいことや、学習した知識を日常生活と結び付け、活用する機会が不足していることが要因の一つと考えられる。
体育	臨時休業中、夏季及び冬季休業中に運動取組カードを活用して体力向上に取り組んだことで、制限された活動の中であったが、体力テストの結果、多くの種目で昨年度と同様の結果となった。「握力」は、3年男子1ポイント、5年男子1.8ポイント、5年女子2.2ポイント等、6年男子以外のすべての項目で都の平均を下回っており課題である。「20mシャトルラン」や「ソフトボール投げ」等は、日常的な運動経験の個人差も大きい傾向にあり課題がある。	個々の目標値を伝えることで、記録の向上に繋がることもあったが、体育朝会等が実施できなかったこともあり、「握力」に関する取組が行えなかったことが要因の一つと考えられる。
英語	ALTと担任が相談して作成したレッスンプランを基に、発音を繰り返す活動や学習したことを基に発表する活動の時間を確保していることで、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（発表）」については、英語の特徴や決まりに関する事項を理解することができている。しかし、「話すこと（やりとり）」「書くこと」については課題がある。	繰り返し英単語を書くなど、書く技能を身に付けるための時間が不足していることや、アクティビティが効果的なタイミングで実施されていないことが要因の一つである。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
①学力基盤		基礎的・基本的な「知識及び技能」の習得と「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成に努め、全ての児童の資質、能力を向上させる。定着度の的確な把握と共に、放課後等の「ステップアップ教室」や担任による補習教室を活用し、学力の定着を図る。規律正しい授業が展開できるよう児童に規範意識をもたせる。
②授業改善		各教科・領域の「見方・考え方」を教師が理解し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて授業改善を行う。また、学び合いを意図的に設定した授業や自分の考えをより深く考察する場を、指導計画に基づいて計画通りに実施する。タブレット端末等のICT機器を効果的に活用して児童の主体的な学習を促し、個に応じた指導につなげていく。
③教員の指導力		全教員が年3回、略案を元にした授業を公開する。また、毎月1回OJTを実施し、授業改善を図る。外国語活動においては、ALTを効果的に活用して、担任全員が主体となる授業を行う。
④家庭との連携		年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施し、教育活動の改善を図る。学校公開、保護者会、学校便り、ホームページ、Google Workspace等を活用し、積極的に情報を発信し教育活動の理解を図る。
⑤体力向上		マイスクールスポーツについて、全児童が休み時間や朝の時間に一定期間の共通した取組を行い、特色ある教育の推進を図る。全児童が長期休業中に、「体力アップの運動」に取り組み、体力向上へ繋げていく。特に、握力については、体力調査で各項目平均0.5ポイント上昇を目指す。



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

①学力基盤	
取組Ⅰ	「有馬スタイルの確立」を図る ・昨年度までの校内研究を生かした学級作りと、主体的・対話的で深い学びを通じた授業作りを組み合わせたスタイルを作っていく。 ・自ら学び考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する体験的な学習を効果的に取り入れ、学習したことを発表する機会を計画的に設定する。
取組Ⅱ	基礎的・基本的な学力の徹底 ・算数の基礎・基本を身に付けるために、放課後、個人面談時、夏季休業中に補習教室「ステップアップ教室」を実施する。 ・学習力サポートテスト等の結果を基に、平均値に到達していない児童については、ステップアップ教室の参加を促すと共に、苦手な領域である「数量関係」や「図形」の復習も行っていく。 ・全ての学年において、年3回程度、補習教室期間を設定し、児童の実態に応じた担任が補習を行う。
取組Ⅲ	ルールやマナーを遵守する態度の育成 ・「有馬のよい子」や学習規律「有馬スタンダード」の徹底を図り、言語環境を整えることで、学習意欲や規範意識を向上させる。

②授業改善	
取組Ⅰ	PDCA サイクルに留意した指導の改善 ・日常的な学習状況や各種調査の結果を踏まえ、児童の課題に応じた指導の工夫を行う。 ・各教科等の指導計画及び評価規準の作成、目標に準拠した適正な学習評価を実施していく。
取組Ⅱ	主体的・対話的で深い学びを通しての授業づくり ・各教科等の授業の中で言語活動を充実させるとともに、「学び合い」の時間を位置付け、発表、対話、討論、話し合い等を意図的・計画的に発達段階に応じて取り入れる。特に、生活科や理科の学習では、理科の実験・観察を基にした体験的な学びの充実するため、継続的な観察活動を実施するとともに、観察・実験結果からより深く考察するための学び合いの場を意図的に設定する。
取組Ⅲ	基礎的・基本的な学力の定着の徹底 ・算数科では、1・2年生は担任と都の講師学級数+1グループ、3～6年生は担任と少人数指導、算数区講師2名により、3学級の学年は6展開、4学級の学年は2学級ずつ4展開とし、全学年習熟度別少人数指導を行う。 ・タブレット端末等のICT機器を効果的に活用して児童の主体的な学習を促し、個に応じた指導につなげていく。また、ドリルソフトを活用して学習の定着を図る。

### ③教員の指導力

取組Ⅰ	<p>校内OJT、校内研究・研修</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有馬スタンダード（学習規律）、有馬スタイル（各教科の単元計画）を生かしたOJTを実施し、分かる授業づくり等指導力の向上を図る。</li> <li>・月1回の研究日を設け、学年及び分科会で指導案検討、模擬授業などを行い、授業改善を図ると共に、研究主題に迫る。</li> <li>・主任教諭が若手教諭を指導・助言をする授業公開を、年間を通して計画的に行い、授業力の向上を図る。</li> </ul>
取組Ⅱ	<p>研究授業の公開や外部研究会・研究発表会への参加</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年1回以上、全教員が授業公開や研究会への積極的な参加を推進し、教科に対する専門性を高める。</li> </ul>
取組Ⅲ	<p>担任主体による外国語活動の授業力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語研修会、校内研修等を通して、さらに担任主体の授業力を高める。</li> </ul>

### ④家庭との連携

取組Ⅰ	<p>家庭への情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学年便りや個人面談・保護者会等を活用し、積極的に情報発信を行う。また、発信に当たっては5月からGoogle Workspaceを活用して情報発信を行う。</li> <li>・学習力サポートテストや体力調査等の分析結果を伝え、家庭と協力して基礎学習の習得や体力の向上を図る。</li> </ul>
取組Ⅱ	<p>学びの習慣化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校からは毎日、全学年が音読や漢字、計算等の家庭学習を提示し、提出されたものは、必ず担任が確認する。</li> <li>・保護者会等で、目指す児童像を示すとともに、学習の定着に向けた家庭学習への取組についての理解を求める。</li> </ul>
取組Ⅲ	<p>学校アンケートの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校公開時のアンケートによる授業評価、年2回の児童・保護者による学校評価アンケートを実施する。</li> <li>・保護者からの要望・改善点等を早期解決し、信頼関係を構築する。</li> </ul>

### ⑤体力向上

取組Ⅰ	<p>マイスクールスポーツの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内持久走大会（ARIMA RUN）に向けて、体育の授業及び休み時間に時間走を全校で取り組む。</li> <li>・縄跳びカードを全校共通で年間を通して取り組む。</li> </ul>
取組Ⅱ	<p>体力アップの運動カードの取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長期休業中に、全校共通で「柔軟性を高める運動」、「体幹を鍛える運動」、「短縄跳び」、「持久走」の4項目のカードを使って運動に日常的に取り組む。</li> </ul>
取組Ⅲ	<p>体育授業の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体力調査の結果を基に、体力向上に関する運動例から各学級の実態に合わせて授業で継続的に取り組む。</li> </ul>

【取組結果の検証】

学力向上に向けた 視点	取組の成果	取組の課題
①学力基盤		
②授業改善		
③教員の指導力		
④家庭との連携		
⑤体力向上		